



特集

積み上げてきたまちの文化

丹原七夕夏まつりの軌跡

今年で38回目を迎え、最後の開催となる丹原町の丹原七夕夏まつり。
七夕まつりの魅力は大きな笹飾り。いろいろな思いが込められた笹飾り
をあなたは見たことがありますか。今月の特集は、七夕まつりのことや
人の思いに触れながら、今後のまちづくりについて考えます。



あなたに見てもらいたい
景色がここに 있습니다。



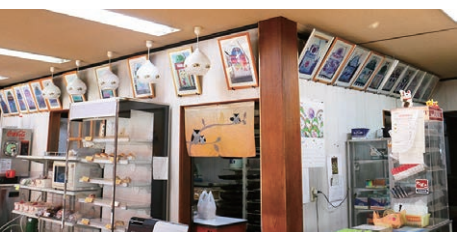
【平成3年～平成14年ごろ】
7.吉野連の阿波踊り 8.福田さんの仕掛け作品。下半分がふきながし
9.幾つもの笹飾りをくぐる 10.火を噴くドラゴン 11.オリジナルパンを展示 12.多くの人でにぎわう



【昭和56年～平成2年ごろ】
1.ずらりと並ぶ笹飾り 2.今も大人気のミニSL 3.店前に大きな飾り 4.かき氷が待ち遠しい 5.大きな飾りに思わず手を伸ばす子ども 6.夜には光を放つ笹飾り



数多くの知事賞受賞経験がある
笹飾りのスペシャリスト
曽我部正博さん
(田野屋)



田野屋の店内には歴代の知事賞作品の写真が展示されています

まつりのターニングポイント
まつりが最盛期を迎えたのは平成10年ごろ。きっかけは、渡部さんや福田嘉次さんなど当時の実行委員会の方々で行った、湘南ひらか七まつりの視察でした。「よその笹飾りを見たらアイデアがいっぱい」と渡部さん。平塚には、大がかりな笹飾りがズラリと並び、その迫力に圧倒されたそうです。
視察をきっかけに福田さんは「何か挑戦してみよう」と、子どもに大人気の仕掛けがある笹飾りを制作するようになりしました。例えば、モーターを利用してシーソーを動かすものや、人形が自転車をこぐ仕掛けなど。毎年、福田さんの飾りの前では子どもが大勢足を止め、動く仕掛けに夢中。でも、「僕

が気に入ったのは、ふきながしで仕掛けのないやつ」と意外な言葉が。ただ、このシンプルな飾りは人気が出ず、やはり「仕掛けがあるほうが喜ばれる」と、訪れる方を楽しませたい一心で何十年も取り組んできたそうです。
笹飾りには、さまざまな賞があり、最高賞である知事賞を目指して競争していたことも。数多くの知事賞を受賞してきた曽我部正博さんは、笹飾りが完成すると、すぐに次年度のデザインを考えていたそうです。渡部さんも



仕掛けがある作品で参加者を魅了する
福田嘉次さん
(福田サイクル)

七夕まつりの誕生
江戸時代に松山藩により造られ、明治から昭和にかけてにぎわい、人々の生活を支えてきた丹原商店街もともと丹原商店街では、大正時代から七夕のころに、各商店が軒先に笹飾りを立て、通行人を楽しませていたようです。商店街も少しずつ栄えてきて、昭和48年に丹原商店連盟の主催で

を焼いたり、綿菓子作ったりと。でも、何か盛大にできるイベントはないかなと、商店街の有志で考えて始めたのが丹原七夕夏まつりなよ」と、振り返ります。
そこから、商店街の方々が中心となり、徐々にまつりの規模が拡大。そして旧暦の七夕、約1kmの商店街を豪華な笹飾りがずらりと彩る、丹原の伝統文化として成長していきました。



始まりから携わってきた
丹原七夕夏まつりの立役者
渡部安弘さん
(菓舗とくのや)

土曜夜市（6月中旬～お盆前）が始まり、昭和56年に現在まで続く「丹原七夕夏まつり」が誕生しました。
夜市や丹原七夕夏まつりの始まりに携わった渡部安弘さんは「夜市もすごく人気やったんよ。当時は、各店主がとうもろこしやイカ

丹原商店街と七夕夏まつり
丹原七夕夏まつりの始まりは、昭和の終わりごろ。まつりを立ち上げ、支えてきた丹原商店街の方々に、その歴史や魅力、そして丹原のまちや商店街への思いを語っていただきました。



取材にご協力いただいた商店街の皆さん



- 【平成17年～平成29年】
1. 丹原小学生の鼓笛隊パレード
 2. 僕は火を噴くドラゴンだ！
 3. 笹飾りを目指して全力疾走
 4. まつりには浴衣や甚平で参加する方も
 5. 家族でまつりを楽しみます
 6. 地元の丹原高校生も作品を出展
 7. 道前太鼓
 8. 丹原町内の方々による盆踊り
 9. 平成29年度の知事賞作品



「みんなの飾りを見ることができるのはまつり当日だけ。みんなアイデアがバレないように隠しながら作りましたよ」と、まつりの舞台裏でも熱い戦いが繰り広げられていたことを明かします。そうやって、街中で切磋琢磨する心が、まつりをより盛り上げたのでしょう。

「らしさ」は大きな笹飾り「やっぱり笹飾りやね！」。まつりの魅力について質問すると、皆さん答えは同じ。その時代を表す絵を描いたり、



丹原商店街で生まれ育ち、笹飾りの魅力を守り続けてきた

藤岡陽子さん
(ファッション藤岡)

飾りで使用する紙などの素材を変えたりと作品は多種多様。飾りの制作には、家族やご近所さんと協力して、約1、3カ月をかけます。福田さんは「作りよる時がワクワクする」と準備期間も楽しみの一つだと語ります。

作品にはそれぞれ思いがあるようで、曾我部さんは、キャラクターなど子どもが喜びそうな題材、藤岡陽子さんは、後から写真を見返したときに思い出せるように、その時代に流行したものを取り入れています。それぞれが、試行錯誤し、丹精込めて作られた作品は、まつりの主役となり、これまで何万もの人を楽しませてきました。

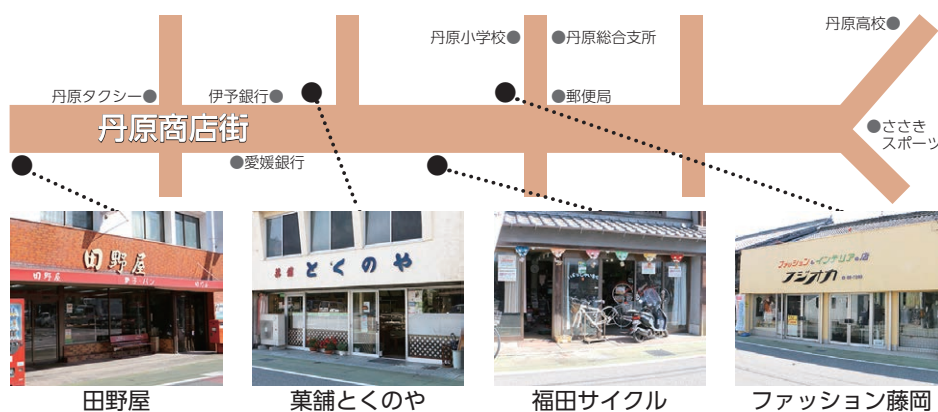


紙を折るときに使用する「花子ちゃん」。制作の効率化に貢献

またどこかで…

今年で38回目を迎えるこのまつり。大型店舗に対する規制緩和の後、商店街が衰退し、行政や各種団体も協力してなんとか続けてきましたが、担い手の減少と高齢化により、今回の開催で幕を閉じます。皆さん口をそろえて言うのが「もっと続けたい」。正直寂しい」という言葉。立ち上げ当初から携わる渡部さんは「情けない。わしらがもっと頑張れたら…」と悔しがっていました。それでも、皆さんは最後のまつりに向けて、前向きな気持ちで準備に取り掛かっています。曾我部さんは「最近では体調が悪く、あまり大きい作品が作れてなかったけど、今年は大きい飾りに挑戦し、また子どもにも喜んでもらいたい」と意気込んでいました。

渡部さんたちが中心となり、盛り上げてきたこのまつりは、いったん区切りを迎えます。「笹飾りあってこそこのまつり」というように、規模を縮小してはそばそと続けるのは本意ではないのかもしれない。藤岡さんは「商店街でのまつりは終わるけど、違う形でまた丹原を盛り上げてほしい。子どもたちが夏にワクワクするイベントがどこかで開催できるといいね」とこれらの丹原の発展を願っていました。



丹原商店街マップ

今回、取材した方々のお店を紹介。ぜひ、足を運んでみませんか？※詳しいアクセス方法は9ページをご覧ください。

徳島 池田 吉野連インタビュー

丹原七夕まつりに彩りを加えてくれている吉野連。前連長の木下敬二さんにお話を伺いました。

丹原で踊れる喜び

七夕まつりの良いところは、趣向を凝らした数多くの笹飾りを楽しみながら踊れること。そして、参加者との距離が近く、皆さん気さくに声を掛けてくれることも魅力の一つだと感じています。

今回で終わってしまうのは、地元のまつりがなくなるようで、すごく寂しいですが、お客さんはもちろん、気持ちよく踊れるために準備などをしてくれるスタッフの皆さんのためにも、今年も全力で踊ります。当日はちびっこはかわいらしく、女踊りは艶やかに、男踊りは豪快に、いろいろな踊りを披露します。七夕まつりで皆さんとお会いできることを楽しみにしています。





1.2.まつり直前にはみんなで協力して笹を上げ、交通看板なども設置 3.笹飾りで使用する大量の花を開く作業 4.各種団体の代表者による実行委員会の会議 5.竹は毎年約70本も使用します

開催に向け準備が進められています。ぜひ最後のまつりを目に焼き付けませんか。

まつりの舞台裏



子どもも大人も楽しめるまつり

高山貴広さん
璃乃ちゃん(右)
ひまりちゃん(左)

子どものころは、友達と会場の商店街を何往復も歩いたり、花火をしたり、大人になってからも懐かしい知り合いに会うことができ、七夕まつりは楽しみの一つでした。笹飾りも昔に比べると数は減っているけど、クオリティは高まっている気がします。今年も子どもたちとまつりを楽しみたいです。



七夕まつりは思い出いっぱい

永井雅之さん
新大くん

七夕まつりは、小学生のころから友達と自転車でよく行ってました。思い出は、丹原小学校の鼓笛隊。僕も鼓笛隊でパレードに参加してたので、がんばっている子どもを見ると昔をすごく思い出します。まつりが続いてほしいのが本音。また近くで子どもたちが楽しめるようなイベントができると良いですね。

私の丹原七夕夏まつり

七夕にあなたは何を願いますかー

第38回 丹原七夕夏まつり

最後の 8月5日(日)・6日(月)・7日(火)

会場：丹原商店街

問合せ 丹原七夕夏まつり実行委員会事務局
(丹原総合支所総務課内) Tel.0898-68-7300

主な催し (都合により中止・変更の場合あり)

8月5日(日)

- 丹原高校 (多肉植物販売、人形展示)
17時～20時 愛媛銀行会場
- 丹原小学校・鼓笛隊パレード
17時30分～18時 商店街 (上町～下町区間)
- みんなで踊ろう ダンス!ダンス!
(認定こども園・西山学園)
18時30分～19時 お祭り広場
- 盆踊り連
19時45分～20時 商店街 (下町区間)
20時～21時30分 商店街 (中町・上町区間)
- チャリティーお茶会 18時30分～21時 中町会場

8月6日(月)

- 道前太鼓 18時30分～19時 お祭り広場
- 阿波踊り「吉野連」
19時30分～21時30分 商店街 (下町～上町区間)

8月7日(火)

- ミニS L 15時～20時 お祭り広場
- くじ引き
市町村振興宝くじのサマージャンボ宝くじ関係品が当たる
18時～22時 伊予銀行会場 ※先着500人

3日間共通

- 火を噴くドラゴン 19時～21時30分 愛媛銀行会場
- 笹飾り展示 15時～22時



写真コンテスト作品募集

題材 笹飾りをアピールするもの
作品 カラー四つ切以上 ※組写真不可
応募用紙設置場所・作品提出先 (郵送可)
市庁舎新館 2階観光振興課、丹原総合支所総務課
応募期限 8月31日(金)必着
問合せ 丹原七夕夏まつり実行委員会事務局



まちの次世代を担う皆さんにお話を伺いました。

丹原の未来を描く

私たちは毎年、七夕まつりに周桑商工会青年部として、笹飾りの制作やバザーなど、お手伝いとして参加しています。七夕まつりが終わることを知ったときは「なんで?」というのが率直な感想でした。私たちが子どものときから参加してきた行事だけに非常に残念でした。

でも、自分たちの力で丹原にイベントを残したい。それは、子どもたちに夏のワクワク感を感じさせてあげたいし、大人になったときに、このまちに帰ってきたいと思える魅力ある地域づくりをしたいから。私たちも七夕まつりで楽しい思い出があるからこそ、そこへの思いは強く抱いています。

来年以降、各種団体などと協力して、何か新しい形で子どもたちが楽しめるようなイベントができるようなと思っています。ぜひ、皆さんで丹原に明るい未来を描きませんか。



佐伯将尚さん(奥)
青野好伸さん(左)、曾我部数也さん(右)

あなたの力で新しい風をー

今年で惜しまれながらも、幕を閉じる丹原七夕夏まつり。商店街の方をはじめ、協力してきた方は、いろいろな困難を乗り越え、まちの文化を積み上げてきました。

「近所での楽しみがなくなる」「子どもと行けるせっかくのイベントが」と丹原のみなさんにとって、まちの魅力が一つなくなることは、とても寂しい様子。まつりなどのイベントがまちにあることは、地域にとって大きな魅力。地域全体がにぎわうだけでなく、子どもにとっても楽しい記憶としてずっと残ります。

まちの魅力や文化はみんなの「協働」により創り上げていくものであり、主役は市民一人一人。新しい活動を立ち上げ、継続するのは決して簡単ではありませんが、目的を明確にし、行政のバックアップも含めて協力し合うことで、きっとまた新たな文化も生み出せるはずです。

何かしたい。その気持ちを行動で表してみませんか。きっとあなたのその勇気ある一歩が、まちにとって大きな力になるはずです。